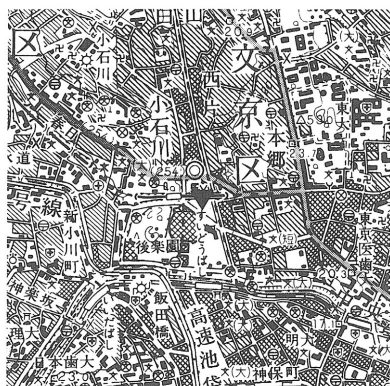


東京・水戸藩徳川家小石川屋敷跡

(春日町遺跡第Ⅶ地点)

- 1 所在地 東京都文京区春日一丁目
- 2 調査期間 二〇〇〇年(平12)一月～二〇〇四年三月
- 3 発掘機関 文京区遺跡調査会(文京区教育委員会)
- 4 調査担当者 加藤元信
- 5 遺跡の種類 遺物散布地・大名屋敷跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代、弥生時代、奈良時代、平安時代、近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査は、(株)東京ドームを事業主体とする東京ドーム第三遊園地



(東京西北部・東京東北部)

(通称「ラ・クーア」)建設に伴うものである。
当該遺跡は、小石川や平川をはじめとする複数の河川が、周辺の洪積台地を浸食・開析して合流し、「小石川大沼」と呼ばれる一大湿地を形成していた地域に所在する。過去に周辺地域

で実施された、水戸藩徳川家小石川屋敷跡の別地点の調査においては、縄文時代前期を嚆矢として、複数度にわたった海進・海退の痕跡と、主として古墳時代以降に本格的に行なわれるようになった水稲耕作の痕跡が、採取土壌の自然科学分析によって明らかにされている。

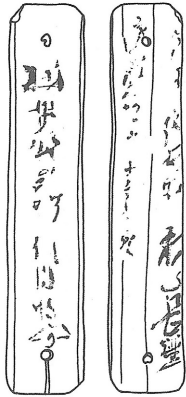
当該調査地点では、こうした沖積低地を屋敷地とするにあたって、人為的な客土・整地が行なわれている。整地された時期は明確にしないが、徳川家康の関八州への入国(天正一八年(一五八七))以後、おそらくは、水戸家がこの地に屋敷地を拝領した寛永六年(一六二九)までで、当該地域に所在していた浄土宗本妙寺やその他の武家屋敷地の造営前後の時期と考えられる。

調査では、縄文時代中期、弥生時代後期から古墳時代前期まで、ならびに奈良時代から平安時代までの土器破片も出土している。

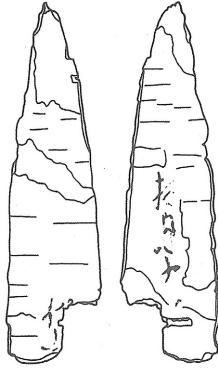
水戸徳川家の江戸屋敷については本遺跡所在地である小石川が上屋敷、東京大学農学部所在地(文京区向丘)の駒込屋敷が中屋敷にあたり、それ以外にも本所(墨田区)の小梅屋敷が蔵屋敷として知られているが、いずれの屋敷も屋敷内の内部構造全体の詳細を知り得る絵図面が確認されおらず、発掘によって確認された建築遺構群などから、屋敷の空間構成を復原していく必要がある。

木簡二点は、大工地盤である整地層中から出土した。

2003年出土の木簡



(1)



(2)

8 木簡の积文・内容

(1) ・「。□□□□杉山長左衛門。
御屋敷□□□□」

・「。□□□□□□後□。」

196×33×4 011

(2) ・「拾月十□」

・「□□□□」

179×46×4 051

9 関係文献

(株)東京ドーム・文京区遺跡調査会『春日町遺跡第Ⅶ地点』(文京区埋蔵文化財調査報告書三二、二〇〇四年)
(加藤元信)